



病院だより

南砺市民病院

〒932-0211 富山県南砺市井波938番地

TEL 0763-82-1475

FAX 0763-82-1853

<http://shiminhp.city.nanto.toyama.jp/>

腹腔鏡手術について



外科医長 真橋 宏幸

従来よりお腹の病気に対しては、「開腹手術」といって、お腹を大きく開き、目的とする臓器を切除したりその他の処置をする手術が行われてきました。

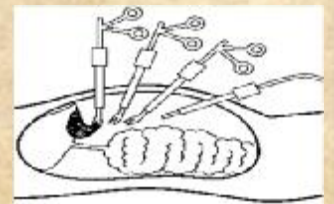
しかし、患者さんにとっては、全身麻酔であるからと言ってもお腹に大きなキズがつくのは出来るなら避けたいものです。我々外科医も常に、より小さなキズで、しかも安全に確実な手術を行いたいと考えてきました。

1987年、フランスの産婦人科医であるフィリップムーレはそれまで主にお腹の中の検査のために使われていた腹腔鏡をつかって世界で初めて胆嚢摘出術を行いました。小さなキズの手術の始まりです。その後、この腹腔鏡手術は日本にもたらされ(1990年)、以後急速に普及してきました。現在では当院でもあらゆる消化器(胃、小腸、大腸、虫垂、胆嚢など)手術に応用しております。

最近の報道などにより危ないイメージを持たれる方もおられるようですが、これらの手術は極めて安全なものです。

腹腔鏡手術の特徴

- キズが小さい 5-10mm程度の小さなキズが3~5か所
- 正確で細かい手術が可能 画面で拡大するから精細な手術が可能
- 回復が早い 翌日から水分、2日目からは食事が開始
- 退院が早い 状況によりますが開腹手術と比べると1/2~1/3日
- 痛みが少ない
- 合併症が少ない
- △時間がかかる
- △適応が限られる



注意、以前にお腹の手術をしている方、全身麻酔のかけられないご病気をお持ちの方などは腹腔鏡手術の適応でない場合があります。当院で手術をお受けになる患者様は、その患者様の全身状態、年齢、既往症などにより、もっとも良いと思われる手術方法を提案させて頂いておりますので、お気軽に御相談下さい。

呼吸器センターを設立

呼吸器センター長
品川 俊治

【南砺市民病院呼吸器病センター設立の目的】

当院は呼吸器内科の専門医師が中心となり本年4月に呼吸器センターを開設しました。

呼吸器といってもどのようなことかわかりにくいかもしれませんが、身近な病気には「かぜ」「気管支炎」「肺炎」「喘息」があり、そのほか「慢性呼吸不全」「ARDS（成人呼吸促拍症候群）」「COPD（慢性閉塞性肺疾患）」「肺癌」「間質性肺炎（感染以外による特殊な肺炎）」などがあります。

これらの病気の治療と地域の呼吸器疾患診療の中心病院として、近隣病院や診療所の呼吸器病の専門的診療を支援しています。

なお、急性及び慢性の呼吸の包括的な管理を行なう際には呼吸器病専門医を中心に、総合診療医（家庭医）、専門看護師、訪問看護師、専門理学療法士、栄養士、薬剤師、MSW（メンタルソーシャルワーカー）、医療事務など多職種が緊密に連携し、急性期の集中治療から慢性期の治療とケア、呼吸器リハビリテーション、在宅でのセルフケアまでの診療とケアを行っています。



呼吸器センタースタッフ

診療内容：呼吸器センター業務の4つの柱

①慢性期の診療およびケア

継続的に治療できるように患者さんが、自身の病気を理解し、治療に対しても主体的に関わるとともに、自己管理能力を高めながら心身共に安楽にその人らしく生活が送れるように多職種が関わり支援しています。

②急性期診療

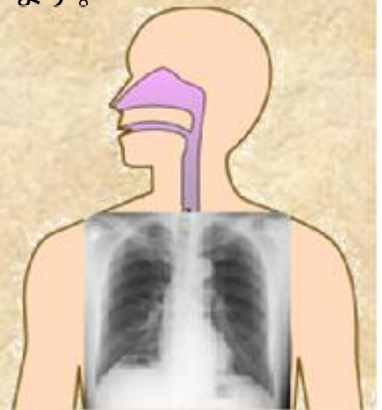
慢性呼吸不全の急性増悪、重症肺炎、ARDS等の急な呼吸不全患者さんを集学的に管理します。

③呼吸器専門外来および呼吸器疾患の予防・早期発見

慢性咳嗽、睡眠時無呼吸専門外来を新たに開設しました。いわゆる間質性肺炎、肺癌、結核、喘息、COPDなど専門性が高い呼吸器疾患も、他の医療機関からの紹介を受けた患者さんを迅速に呼吸器専門外来で診療を行っています。喫煙歴があり危険性の高い方には、検診センターやドックと連携し、肺癌の早期発見のためのCT検査やCOPDの早期発見・早期治療のための呼吸機能検査などをお勧めしています。また禁煙支援のための薬による治療や指導も行っています。

④教育・啓発その他

患者さんが良い治療や生活を行えるよう支援、教育を行います。また、院内における多職種での呼吸器ケアカンファレンス（会議）、医師会との連携し地域のみなさまへの情報提供、啓発活動を行います。



咳は以外に体力を消耗します。喘息をそのままにしておくと大変危険です。また、長年の喫煙による肺気腫など別の病気なども考えられます

せき

頑固な **咳** 外来

相談してね

第1（金曜日） 午後2時から
担当 品川医師（呼吸器専門医）

睡眠時無呼吸症候群は夜間の呼吸状況を検査して診断します。検査は、入院・自宅でも行えます。

睡眠時無呼吸

外来

相談してね

第3（金曜日） 午後2時から
担当 栗山医師（内科専門医）

予約・問い合わせ：地域医療連携科82-0515まで